

毎日が、散歩の途中(最終回)

ことば

文と絵 岡本杏子



杏

「おまえは、美しくあれ」。娘が中学の先生に言ってもらった言葉だ。

去年のことである。娘が友達と喧嘩をして、腹立ちまぎれに蹴飛ばしたことが発端で、相手のお父さんが学校に抗議に行った。先生は、まず子供達から話を聞くと言って、後日、一人ずつ放課後の教室に呼んでくださった。

娘の言い分をすっかり聞き終わって先生は、「気持ち理解できる。でもな」と前置きしたあと、先ほどの言葉で娘を諭してくれたそうだ。

帰宅した娘から話を聞き、見事だと思った。こんなに短い言葉で鮮やかに叱ってくれる大人がいることに感謝した。

その先生は担任ではなく、先方の両親が怒っていることから学年主任として仲介に入ってくれたわけだが、娘の性質を見抜き、心を射る言葉を放ってくれた。「手を出してはだめ」とか「相手の気持ち

を考えろ」という当たり前の言葉ではなく、すべてを含んで生き方を示唆する、一段高い言葉。私も親として、人としての宿った言葉で生徒と向き合ってくれる先生方がいる。そのことが嬉しい。

ところで、この連載も諸般の事情で今回が最後になりました。この3年、自信のない文章が書ければと思いつながら続けてきました。そんな私が書き連ねたよきなしごとを読んでくださった皆様、心から感謝申し上げます。本紙のお店取材ではまたあちこち巡ります。カメラ片手に歩きまわります。背の高い短髪の女を見かけたらそれが私です。声をかけていただけましたら、これほどの喜びはありません。

岡本杏子(あかもと きょうこ)
神奈川県生まれ、世田谷区在住のライター。店舗・住宅・人物の取材執筆を得意とする。今までに経験した職は男女さんや真実屋など。アルバイトと正社員を含めて20を超えるが、ライター業に専らる。15年。散歩と読書猫をよく愛する。一女の母。

韓国大使館のレセプション

特別寄稿(最終回)

朝日新聞社 牧野愛博

9月28日、金曜日の夜。東京都心にあるホテルニューオータニの大広間は、大勢の人々でごった返していた。「今のところ、1400人ぐらいかな。これでも昨年より数百人少ないんですよ」と顔見知りの韓国大使館員が教えてくれた。

この日、大使館による毎年恒例のレセプションが開かれた。外国に駐在する大使館は通常、年1回の「ナショナルデー」に合わせて、その国の様々な分野の人々を招待してレセプションを開く。韓国は10月3日の「開天節」(朝鮮神話

に始祖として登場する檀君が朝鮮をつくったとされる日)を建国記念日としているため、毎秋この時期にレセプションが開かれる。大使館員が総出で、日韓関係にゆかりのある人々を接遇する。様々な人々が集うため、人脈を作ったり、日ごろ会わない人々に挨拶したりするために、誠に都合が良い。

そう思って、別の大使館員に聞いてみた。「政治家で、今年は姿を見かけない人が多いようですね」と教

を考えた。娘が数学にロマンを感じる日がいつか訪れるとは思えないが、世間でとかく悪く言われがちな教育の現場に、気持ちの宿った言葉で生徒と向き合ってくれる先生方がいる。そのことが嬉しい。

やはり、竹島の領有権問題が原因か。韓国に抗議の意思を示す、支持者への顔向けも必要だ、きつと色々な考えがあったのだろう。でも、「直接、韓国人の考えを糾したいから来た」という人もいた。どうせなら、そっちの方を選べば良いのに。

日本の場合であれば、12月23日の天皇誕生日の前後に、各国駐在の日本の在外公館が、世界のあちこちでレセプションを開く。韓国に駐在する日本の在外公館の場合、1965年の日韓外交正常化直後は、相当な苦勞があったと聞いた。当時、反日感情が渦巻き、職員たちは昼食に出る際も日本語を使えない状態だったという。

釜山総領事館の場合、初めて開いたレセプションにやって来たゲストは4人だけだった。群衆が「レ

セプション阻止」を叫んで会場を囲むなか、4人は決死の思いで会場にやって来たという。料理は大量に残り、会場の接待係の人々に包んで持って帰ってもらったと聞いた。

そんな時代に比べれば、数百人減ったぐらいが何だ、という気もする。レセプションの翌日から行われた「日韓交流お祭り」のイベントも無事行われたと聞く。一方で、韓国料理店や韓国雑貨を扱う店の売り上げが減っていることも、これまた事実だ。

在韓日本大使館がソウルでレセプションを開くまで、後1ヵ月余り。ほんの少し前には、東日本大震災の被害者を気遣う韓国人や、それに感謝する日本人の姿が見られたばかりだ。今年も盛大なレセプションであって欲しいと思った。

町ネタ(最終回)

東西南北

エル・グレコ展

2013年1月19日(土)〜4月7日

東京都美術館 企画展示室(上野公園)

TEL 05777-8600 (ハローダイヤル) 一般1600円

エル・グレコ(本名ドメニコ・テオトコロス、1541〜1614年)は16世紀から17世紀にかけてのスペイン美術の黄金時代に活躍し、ベラスケス、ゴヤとともにスペイン三大画家の一人に数えられます。クレタ島に生まれ、ヴェネツィア、ローマでの修行を経てスペイン・トレドにたどりつき、揺らめく炎のように引き伸ばされた人物像が印象的な宗教画や、モデルの人となりをも描き出す独自の肖像画で、当時の宗教関係者や知識人から圧倒的な支持を得ました。ヒカソラ20世紀の巨匠たちからも、その作品は高く評価されています。

本展にはプラダ美術館、ボストン美術館など、世界中の名だたる美術館やトレドの教会群から油彩画50点以上が集結。高さ3メートルを超える祭壇画の最高傑作の一つ「無原罪のお宿り」も初来日し、まさに「奇跡の集結」といえる国内史上最大のエル・グレコ展となります。

自分のペースで楽しくレッスン♪

無料体験レッスン受付中



好きな曲を自由に弾けるようになりませんか。ご希望に合わせ、ポップスや唱歌等の演奏指導や、学生さんには試験対策や伴奏練習など総合的な音楽指導も行います。小さなお子さんには様々な楽器を使い、リズムや歌で楽しく音楽に親しめるレッスンをを行います(ヤマハ音楽教室幼児科の講師経験あり)。お気軽にお問い合わせください。

ピアノ・フルート個人レッスン ドリームミュージック

西ヶ原東児童館ななめ前 (旧田村音楽教室)

発表会開催
12月23日(日)
滝野川会館にて
見学自由(無料)

北区西ヶ原1-47-7 ☎090-2915-2289(米田早苗)
レッスン時間/火曜除き毎日14時〜21時、火曜10時〜21時(振り替え可)
月謝(月4回)/6千円・未就学児5千円・単発レッスン応相談(入会金・維持費なし)

ひとり住まいの学生はおトクです
全国紙で学割があるのは朝日新聞だけ!

朝日新聞 月額購読料(セット版)
通常 3,925円



2,500円

(夕刊のない地域は通常3,007円→学割2,000円)

さらに「朝日新聞デジタル」も
読めるダブルコース学割は
通常なら+1,000円
→学割なら+500円!

(価格は全て税込み)